つるさき

発行所
鶴崎神社
早島町早島2220
〒701-0304
TEL FAX 482-0097
URL
www6.ocn.ne.jp/~turusaki/

荒神社（市場）

摂末社巡拝⑭

早島町早島 1137　祭神　火之迦具土神

早島町市場には荒神社が三社祀られている。この荒神社は千光寺裏手の稲荷神社境内に隣接した丘の中腹に建立されている。

祭神の火之迦具土神（ほのかぐつちのかみ）は伊邪那美神（いざなみのかみ）が最後に産んだ御子神で「火の神」として崇敬され、荒神社にはよく祀られる神であり、鎮火のご神徳がある。

平成四年九月に市場床田、同奥市場、同城山団地、同才尻の氏子により社殿を改築した。

改築された社殿は御堂形式で、瓦葺きの社殿の内部は神座と板間がある。また、境内入口には石鳥居が建てられ、境内には石燈籠と幟石一対が設置されている。

祭典は、十月二十七日に氏子の組合が当番で奉仕している。

昭和三十八年一月鶴崎神社に合併し、同社の飛び地境内神社となる。

神道Q&A

【質問】

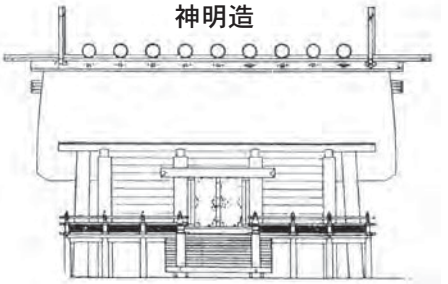
鶴崎神社の本殿は、鶴崎神社と八幡神社の二殿となっていますが、両方の本殿の造りが異なっているようですが、神社の社殿の種類について教えて下さい。

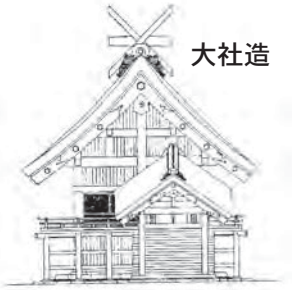
【答え】

各地の神社にお参りすると、それぞれの神社で、社殿の様式が異なっていることに気がつきます。

建物自体、細部まで見るとその違いは多岐にわたりますが、大きく見てその様式を二つに分けることができます。

一つは高床式の穀物蔵の形から発達した「神明造」であり、もう一つは古代の住居の形から発達した「大社造」となっています。


神明造


大社造

「神明造」とは、伊勢の神宮を代表として見られる様式で、切妻造の屋根（棟を境に本を開いたように屋根が両側に流れている）の棟と平行の「平」側に入口がある平入という形になっています。

中でも伊勢の神宮は掘立柱の切妻造平入萱葺の様式で、特に唯一神明造と称します。この神明造から派生したものとして、前面の屋根が長くのびて向拝（参拝者のための廂）となっている「流造」や、切妻平入の建物が二棟接続している「八幡造」などがあります。

もう一つの「大社造」とは、出雲大社に代表される様式であり、切妻造の屋根の「妻」が正面に見える方に入口があるため・妻入といいます。この「大社造」の流れを汲むのが、住吉大社の「住吉造」や春日大社の「春日造」です。

このほか、本殿・幣殿・拝殿が連結した構造で、屋根の棟数が多く複雑になっている「権現造」、拝殿の上に流造の本殿が乗り、重層構造となっている「浅間造」など、地域や信仰により社殿形式はさまざまですが、その時代の建築技術の粋を集めたものであることは確かです。

当社の八幡神社は流造であり、本殿では最も多い造りとなっています。

また、鶴崎神社の本殿は入母屋造となっており、上半分を切妻、下半分を寄棟にした複合形です。

（入母屋造の鶴崎神社本殿）

社殿建設造成工事完了

（流造の八幡神社本殿）

この度の社殿建は、老朽化した幣・拝殿を改築するものであるが、建築場所の確保と、近年初詣や祭りに参拝者が急増しているので危険防止を考慮し、両本殿を後方に十メートル引いて移設する事とした。

したがって社殿改築工事は、両本殿移設後の平成二十年一月から基礎工事が開始され、六月に上棟の予定である。

第一期工事として工事車輌の乗り入れのために、三月から進入路の造成を行い、六月には全て完了した。この進入路はそのまま残し、石段を登る事が不自由な参拝者の便宜を図る。

二期工事は両本殿の移設を行うために、七月から石積み工事や基礎工事が行われ九月には全て完了した。

（完成した進入路）

（本殿移設地と基礎）

秋祭の予定

秋季大祭　十月二十日（土）　午前十時～十一時三十分

【特殊神事・供膳祭】総代、幹事により三十台の特殊神饌を神前にお供えします。夕刻から夜店も出ます。

神幸祭　十月二十一日（日）午前九時～午後二時三十分（雨天中止）

午前八時の花火で執行の合図とします。午前九時の花火の合図と共に神幸行列が神社を出発します。各御旅所を巡幸して午後二時三十分頃に神社へ還御されますので、沿道に出て神輿を奉拝下さい。

「七五三」祈祷

七五三は子供の無事な発育を喜び、なお一層の成長を願って氏神さまに詣でる行事です。

古来は男女三歳で髪置きの祝い、男児五歳で袴着の祝い、女児七歳で帯解きの祝いを行ったことに由来します。

当社では十一月十五日を中心に七五三祈祷を奉仕致します。

十一月十日（土）・十一日（日）に祈祷予定の方は予約はいりません。その他の日に祈祷希望の方は前もってご予約下さい。

十八トンの本殿を曳屋で移設

三月十五日から開始された社殿建設事業は九月で進入路及び造成工事も無事終了し、九月十日から本殿の移設工事が始められた。

この工事は古来からの「曳屋」と呼ばれる工法で行われた。柱の下に板を設置し、樫で作られた「コロ」を置いて、「ロクロ」（巻き取り装置）と滑車を使って人力で建物を動かすものである。

九月十一～十三日にかけてこの珍しい工事を一目見ようと早島幼稚園、かんだ保育園、早島小学校、早島中学校の生徒や園児五〇〇人が見学した。十三日には小学生の代表者が実際に「ロクロ」を回して曳屋体験を行い、その模様がテレビ、新聞で報道された。

九月末までには鶴崎神社本殿の移設を完了し、十月には御神体を仮拝殿から遷す本殿遷座祭を行ない、一段と高くなった敷地に移された本殿において祭典が行われる予定になっている。

また、八幡神社本殿は、十一月に移設が予定されており、年内には両本殿及び狛犬、灯籠の移設工事が全て完了する。

（曳屋を体験・見学をする早島小学校児童）

（新しい敷地に渡って行く鶴崎神社本殿）

祭事暦

十月二十日（土）［午前十時］
秋季大祭【供膳祭】
十月二十一日（日）［午前九時］
神幸祭
十一月中　七五三祈祷
十一月二十三日（金）［午後二時］
新穀感謝祭
一月二日（水）［午後二時］
年始祭
毎月一日［午前九時］月次祭